

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
(この説明書は、必ず保管しておいてください。)

安全上のご注意

施工、使用(操作・保守・点検)の前に必ずこの取扱説明書とその他の注意書きをすべて熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。

⚠ 危険	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡又は重傷を受ける可能性が想定される場合。
⚠ 注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害を受ける可能性が想定される場合、及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、**⚠ 注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

●キャビネットについて

■使用上の注意

⚠ 危険

- ・ 次のような場所では使用しないでください。故障・誤動作・感電・火災等の原因となります。
 - 高温となる場所 ● 常時高温となる場所 ● 輻射熱の受ける場所 ● 腐食性ガスのある場所 ● 極度に塵埃やオイルミストが多い場所 ● 可燃性ガスのある場所 ● 可燃性ガスが漏れる恐れのある場所 ● 振動、衝撃のある場所 ● 導電性粉塵(カーボン繊維・金属粉など)のある場所 ● 塩分を多く含んだ場所 ● ノイズ(電界、磁界)の強い場所
- ・ 換気扇の故障が原因で人命並びに社会的に重大な影響を与える恐れがある場所(医療関係、航空関係など)には使用しないでください。
- ・ 長期間の使用で取付部(ボルト、ナット)など緩みやサビがないか、定期的に確認してください。キャビネットや遮光板が落下し、ケガや機器の故障の原因となります。

⚠ 注意

- ・ 製品の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。キャビネット、遮光板が変形し、ケガの原因となる可能性があります。

■吊上げ時の注意

⚠ 危険

- ・ 本製品を吊上げる場合には、必ず4ヶ所で吊上げ、45度以上の角度で均一な荷重にしてください。45度未満の吊上げ角度、製品可能搭載質量オーバーは落下の恐れがあります。(図1)
- ・ キャビネットを連結した状態での吊上げ作業は行わないでください。変形・落下し、ケガをする可能性があります。

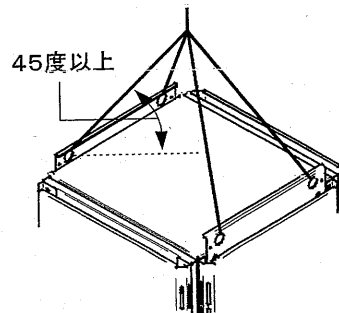


図1

■ 施工上の注意

⚠ 危険

- ・ポール用製品の装柱には、必ず専用オプション「PMJ ポール用金具・重量用」を使用してください。他の設置方法を行った場合、キャビネットが落下し、ケガや機器の故障の原因となる可能性があります。また、側面の取付穴より水が浸入し、故障・感電・火災の原因となる可能性があります。
- ・ポール用製品の装柱には、十分な強度のあるポール等に確実に固定してください。強度が十分でない場合、キャビネットが落下し、ケガや機器の故障の原因となる可能性があります。
- ・キャビネットの天井面を足場にして作業しないでください。キャビネット、遮光板が変形し、ケガの原因となる可能性があります。

⚠ 注意

- ・自立用製品をポール取付けしないでください。下側からキャビネット内部に水が浸入する恐れがあります。
- ・扉開放時には必ずボデー下に設置されているドアストッパをドアに掛けて扉を固定してください。固定しない場合、ドアが閉まりケガをする恐れ、及び強風にあおられた際などドアに過剰な力が加わった場合にドア及び遮光板が変形する恐れがあります。
- ・キャビネットへの取付機器の搭載可能質量は、P.3『製品一覧』の項の通りです。機器取付けの際、許容質量を越えて取付けると、マウントユニット又はマウントアングルが変形し、機器の落下、故障、ケガの原因となる可能性があります。
- ・キャビネットの取扱い時に遮光板に過剰な力をかけないでください。過剰な力が加わった場合、遮光板が変形する恐れがあります。
- ・電気工事は有資格者が行ってください。
- ・電気工事は「電気設備技術基準」及び「内線規定」を厳守し、必ず専用の電源回路としてください。
- ・電線接続の際、端子ねじは確実に締付けてください。発熱・火災の恐れがあります。
- ・積雪時に本製品が埋没しないような場所、高さに取付けてください。
- ・各種取付ねじは右表の適正締付トルク値を守り正しく締付けてください。締付けが不十分の場合、搭載機器の落下・破損の原因となります。また締付け過ぎの場合は、ねじやタップを破損する恐れがあります。
- ・遮光板屋根の取付けは高所作業となる場合がありますので部品の落下に注意してください。

ねじの呼び	適正締付トルク
M5	1.8~2.9N・m (18~30kgf・cm)
M6	2.9~4.4N・m (30~45kgf・cm)

■ 換気扇に対する注意

⚠ 注意



ケガの恐れがあります。

- ・フィンガーガードを外さないでください。
- ・ファン回転部に指や異物などを絶対に入れないでください。
- ・保守点検作業は必ず電源を切り、ファンの羽根の回転が停止してから行ってください。

■ 換気扇に対する使用上の注意

⚠ 危険

- ・電源電圧は使用電圧を超えないよう定格電圧でご使用ください。故障・感電・火災等の原因となります。

⚠ 注意

- ・保守・点検は専門知識を有する人が定期的に行ってください。
- ・換気扇は精密機器ですので振動・衝撃などを与えないでください。故障の原因となります。
- ・保守・点検の際は必ず電源を切り、換気扇の羽根が停止した事を確認してから行ってください。ケガの原因となる可能性があります。

■製品一覧(屋外用熱対策通信キャビネット 換気扇仕様)

〈ポール用・19型タテ置きタイプ〉

IP44 ※1

品名記号	外形寸法(mm)			取付可能 ユニット	搭載可能 熱量(W)※2	搭載可能 質量(kg)	製品質量 (kg)	摘 要
	ヨコ	タテ	フカサ					
RCP60-465T-F1B	440	731	680	6U	105	30	45.9	防湿換気扇付(×1) サーモユニット付

〈ポール用・19型ヨコ置きタイプ〉

IP44 ※1

品名記号	外形寸法(mm)			取付可能 ユニット	搭載可能 熱量(W)※2	搭載可能 質量(kg)	製品質量 (kg)	摘 要
	ヨコ	タテ	フカサ					
RCP60-66Y-F1B	640	681	680	10U	90	40	51.0	防湿換気扇付(×1) サーモユニット付
RCP60-67Y-F1B	〃	781	〃	13U	100	52	57.0	
RCP60-68Y-F1B	〃	881	〃	15U	110	60	62.0	
RCP60-69Y-F1B	〃	981	〃	17U	115	68	70.0	
RCP60-610Y-F1B	〃	1081	〃	19U	125	76	75.0	
RCP60-66Y-F2B	640	681	680	10U	175	40	53.0	防湿換気扇付(×2) サーモユニット付
RCP60-67Y-F2B	〃	781	〃	13U	185	52	59.0	
RCP60-68Y-F2B	〃	881	〃	15U	195	60	64.0	
RCP60-69Y-F2B	〃	981	〃	17U	205	68	72.0	
RCP60-610Y-F2B	〃	1081	〃	19U	215	76	77.0	

〈自立用・19型ヨコ置きタイプ〉

IP44 ※1

品名記号	外形寸法(mm)			取付可能 ユニット	搭載可能 熱量(W)※2	搭載可能 質量(kg)	製品質量 (kg)	摘 要
	ヨコ	タテ	フカサ					
RCJ60-66Y-F1A	680	781	680	10U	80	40	64.3	防湿換気扇付(×1) サーモユニット付
RCJ60-68Y-F1A	〃	981	〃	15U	95	60	76.2	
RCJ60-610Y-F1A	〃	1181	〃	19U	115	76	90.2	
RCJ60-66Y-F2A	680	781	680	10U	170	40	66.3	防湿換気扇付(×2) サーモユニット付
RCJ60-68Y-F2A	〃	981	〃	15U	185	60	78.2	
RCJ60-610Y-F2A	〃	1181	〃	19U	205	76	92.2	

注)※1. IP(防塵・防水)性能は、IEC規格60529に基づく試験による性能です。

※2. 搭載可能熱量は、キャビネット外温度35℃、キャビネット内許容温度45℃での日射の影響を考慮した計算値(目安)です。

■付属品

ハンドル用キーセット	1
屋根注意ラベル	1
取扱説明書	1

■各部名称

RCP60-465T-F1B

ポール用
19型タテ置きタイプ

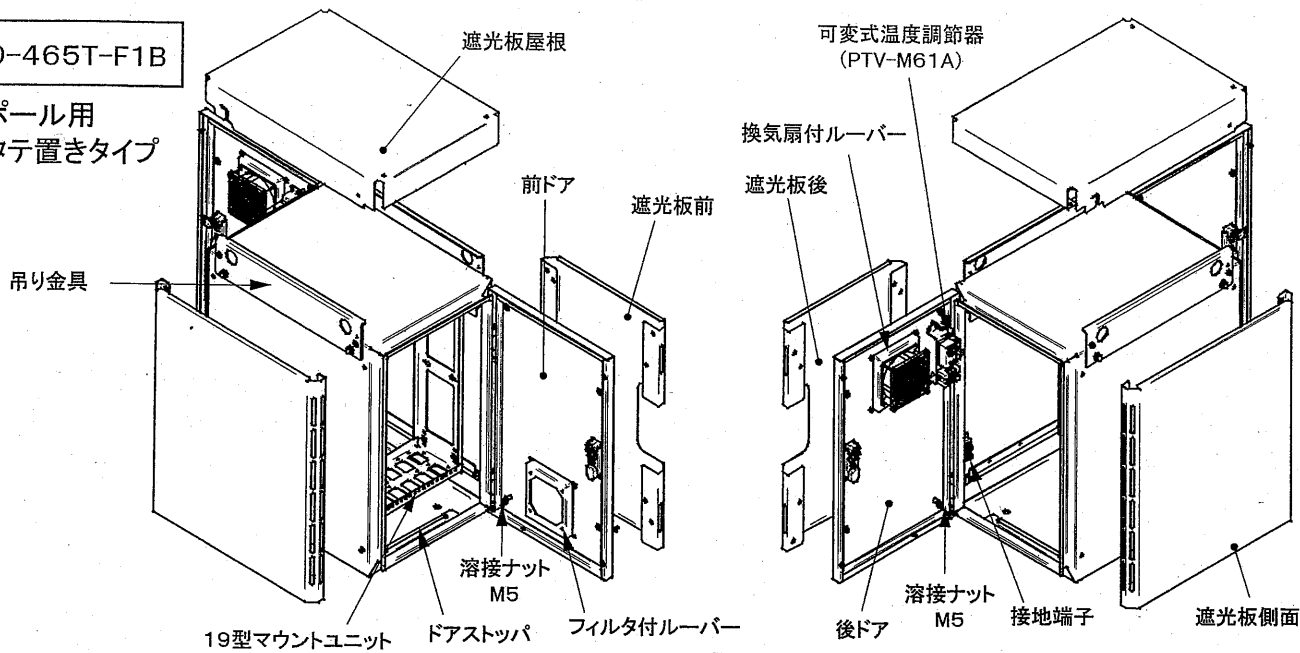


図2

RCP60-66Y-F1B

ポール用
19型ヨコ置きタイプ

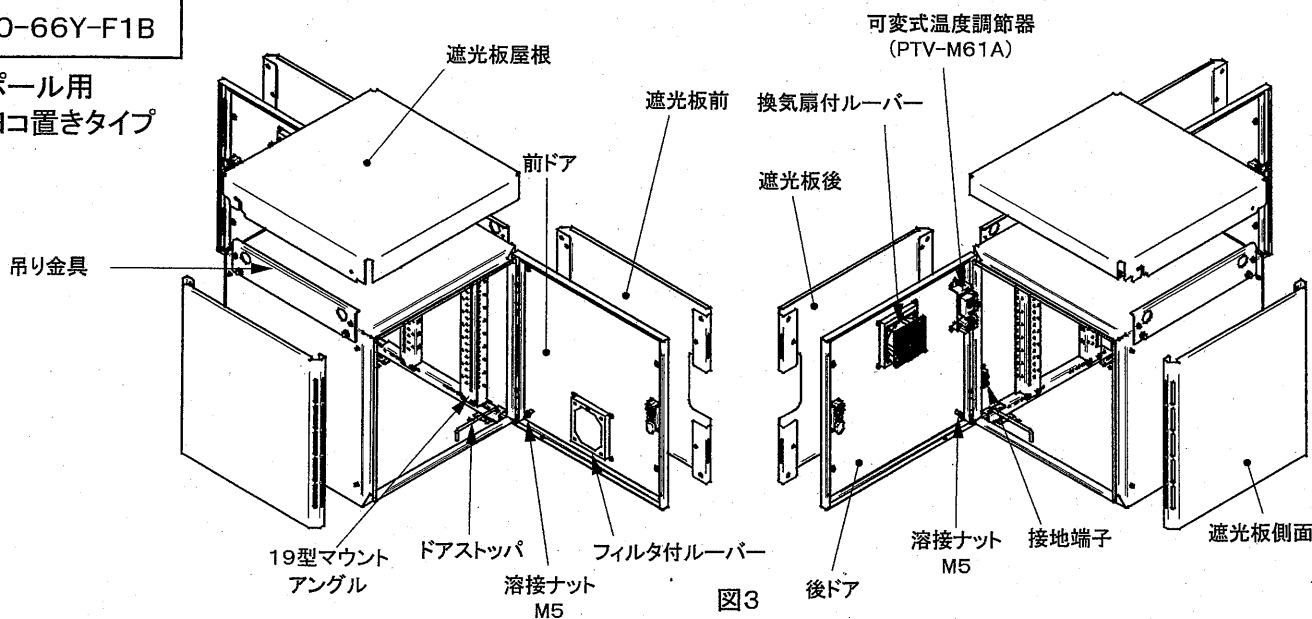


図3

RCJ60-66Y-F1A

自立用
19型ヨコ置きタイプ

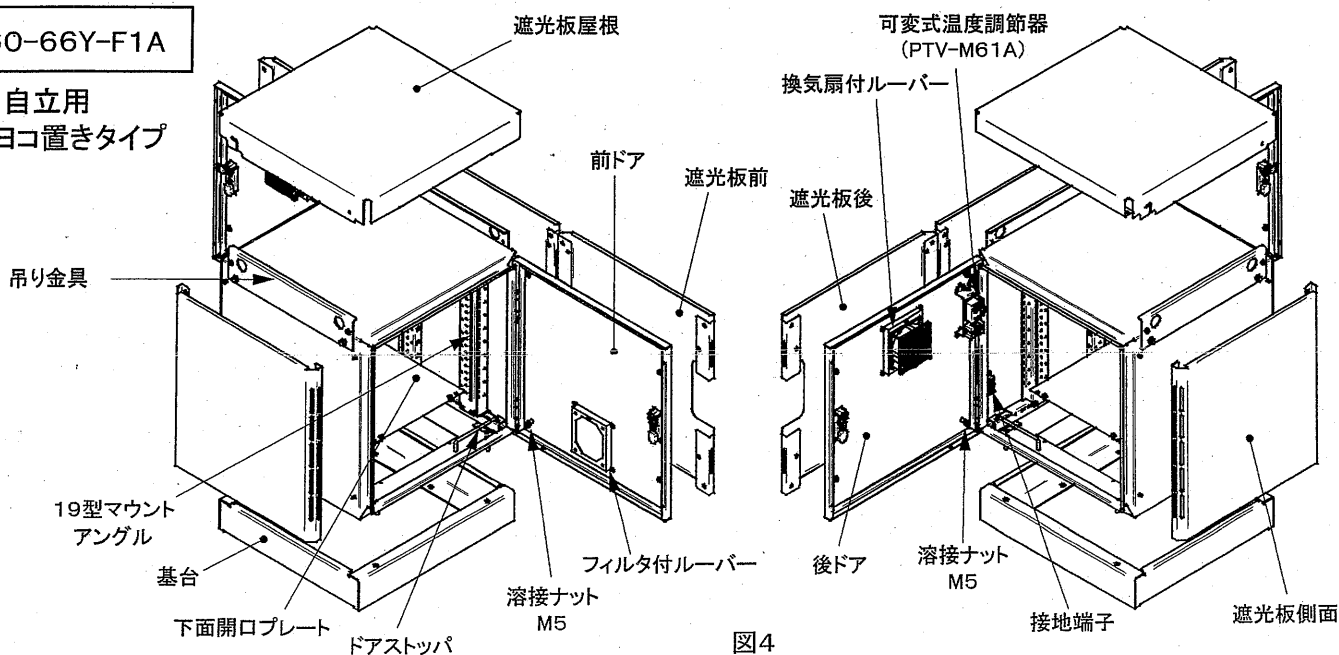


図4

■キャビネットの取付けについて(ポール用)

⚠ 危険

- ・本製品の装柱には、必ず専用オプション「PMJ ポール用金具・重量用」を使用し、十分な強度のあるポール等に確実に固定してください。他の設置方法を行った場合、キャビネットが落下し、ケガや機器の故障の原因となります。

- ・本製品の装柱には、オプションのポール用金具PMJ用の取付穴があらかじめ加工されています。(図5)

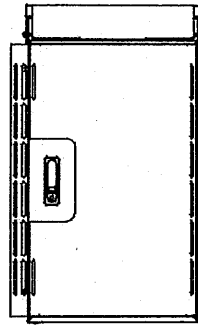
(ボデー右側面: $\phi 9 \cdots 2$ 箇所)

ボデー底面: $\phi 14 \cdots 4$ 箇所)

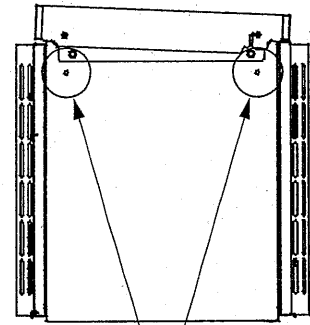
必ず専用ポール用金具PMJを使用して設置してください。

注) PMJの取付方法については、PMJに付属されています取扱説明書を参照してください。

正面

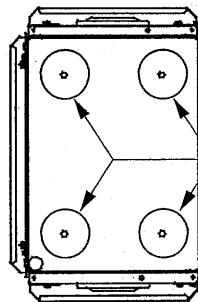


右側面



$\phi 9$ 取付穴

底面



$\phi 14$ 取付穴

図5

遮光板屋根固定ねじ(4箇所)

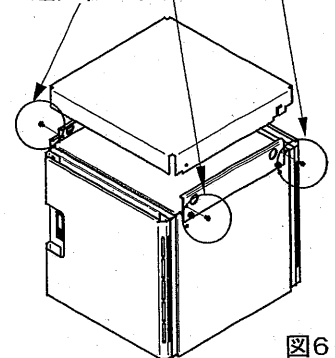


図6

⚠ 注意

- ・遮光板屋根の固定ねじは下表の適正締付トルク値を守り正しく締付けてください。締付けが不十分の場合、搭載機器の落下・破損の原因となります。また、締付け過ぎの場合は、ねじやタップを破損する恐れがあります。
- ・遮光板屋根の取付けは高所作業となることがありますので部品の落下に注意してください。

ねじの呼び	適正締付トルク
M5	1.8~2.9N・m(18~30kgf・cm)

●キャビネットの吊下げ方法について

1. 遮光板屋根の固定ねじ(M5-10:4箇所)を緩め、
遮光板屋根を外して吊り金具を露出させてください。(図6)
2. 吊り金具の穴を用いて製品を吊下げてください。(図1参照)
3. 製品の設置後、遮光板屋根を再度取付けます。
傾斜の後側(屋根を低くしたい側)に固定ねじを隙間を
3mm程度残して仮締めし、遮光板屋根の切欠き部をはめ込んで
ください。その後反対側の穴に固定ねじを締付け、最後に
仮締めした側の固定ねじを締切ってください。(図7)

- ・取付けの際必要に応じて(他の作業者が遮光板屋根を作業足場に使用される可能性がある場合)「屋根注意ラベル」(付属品)を遮光板屋根に貼付けて、作業足場に使用しないように注意を促してください。(図8)

注) ドアは必要に応じて溶接ナットを利用して
接地(アース)してください。

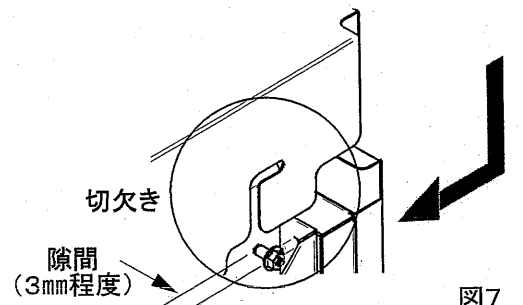


図7

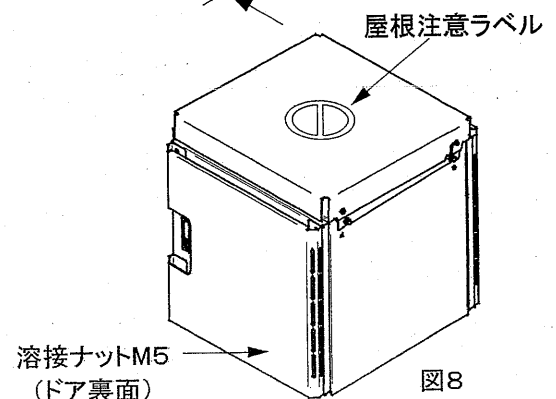


図8

■キャビネットの取付けについて(自立用)

⚠ 注意

- ・キャビネット盤内の取付機器の設置位置や重量等により、地震・台風時に転倒の恐れがあります。所定のアンカーボルト以外にも必要に応じ転倒防止等の処理を行ってください。転倒防止の処理がされていないと、キャビネットが転倒し、機器の故障やケガの原因になる可能性があります。
- ・基台底面のアンカーボルト取付用穴4-φ14を使用し、M12のアンカーボルトにて床面に固定してください。

キャビネットが転倒し、機器の故障やケガの原因になる可能性があります。(図9)

	最小埋め込み深さ(L)
ボルト径 M12	60mm

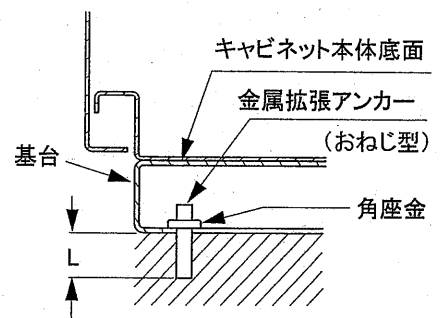
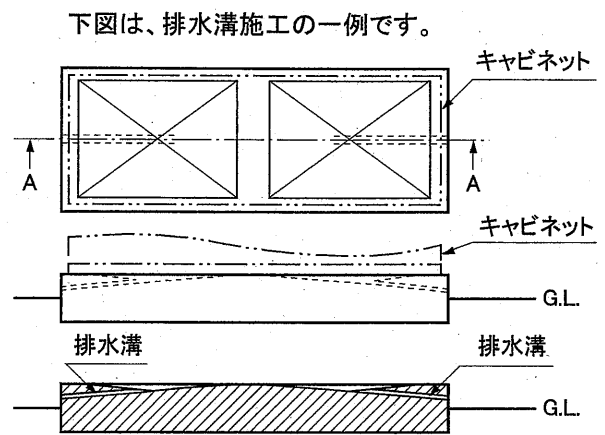


図9

- ・下面開口プレートに機器や物を載せたり、人が乗ることはやめてください。下面開口プレートの変形やケガの原因になる可能性があります。(図4)
- ・アングル等を使って設置面を上げる際は、下側からキャビネット内部に水が浸入する恐れがあります。
- ・キャビネットは平行な床面に設置してください。床面が平行でないと扉がひずみ、IP性能を保持することができなくなり、機器の故障やケガの原因になる可能性があります。

- ・扉のひずみ防止のため、設置場所の床面のレベル出しを行ってください。
- ・内部に雨水が溜まるのを防ぐため、図10のような排水溝を設けてください。
- ・排水溝の流出口には金網を張るなどして小動物の侵入を防止してください。
- ・引込、引出配線は、原則としてパイプにて施工してください。
- ・パイプ工事完了後は、パイプの周囲より漏水の無いように配慮してください。



断面A-A

図10

●床面の調整方法

- ・床面が平行でなく扉にひずみが生じた場合は、スペーサー等により設置面が平行になるように調整してください。(図11)

調整方法

扉が↑①の方向にひずんだ時は、

↑①の箇所のどちらか一方にスペーサー等を入れてください。

扉が↓②の方向にひずんだ時は、

↑②の箇所のどちらか一方にスペーサー等を入れ、設置面が平行になるように調整してください。

●オプションパーツのご案内

スペーサーには、オプションの「基台用スペーサー」をご利用頂くと便利です。

品名	品名記号	摘要
基台用 スペーサー	BP17-10SU	U字(アンカーボルト用、t1.0)
	BP17-103OS	50mm角(t3.0)

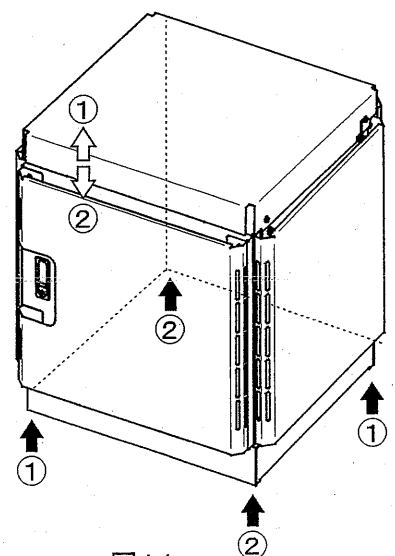


図11

■マウントアングル・マウントレールの前後移動について

マウントアングルR、L・マウントレールR、Lが前後に25mm移動できます。(図12)

●移動方法

1. 取付ねじ(M6-12)を取外し、マウントアングル、マウントレールを移動させたい方向に25mm移動させ、再度取付ねじ(M6-12)で取付けます。
注)マウントアングル、マウントレールは必ず全て同方向に移動させてください。ラックオプションの取付けが出来なくなります。

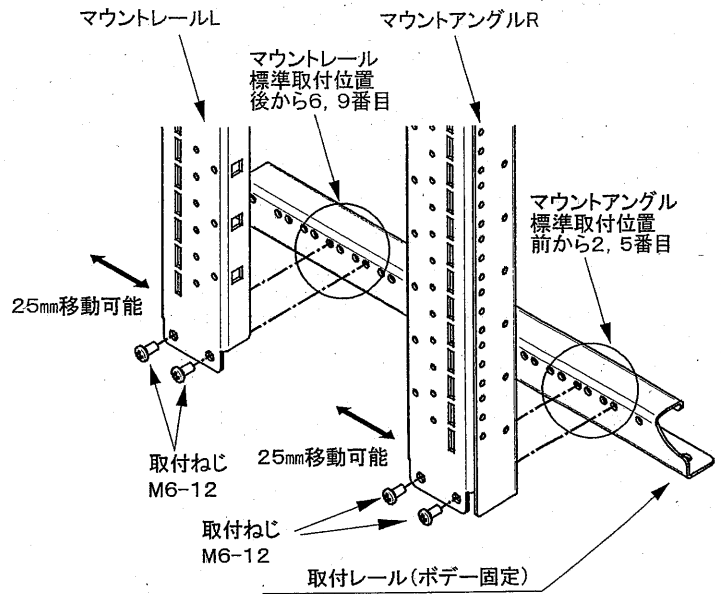


図12

⚠ 注意

各種取付ねじは右表の適正締付トルク値を守り正しく締付けてください。締付けが不十分の場合、搭載機器の落下・破損の原因となります。また、締付け過ぎの場合は、ねじやタップを破損する恐れがあります。

ねじの呼び	適正締付トルク
M6	2.9~4.4N・m (30~45kgf・cm)

■ステンレス製換気扇付ルーバー

●各部名称

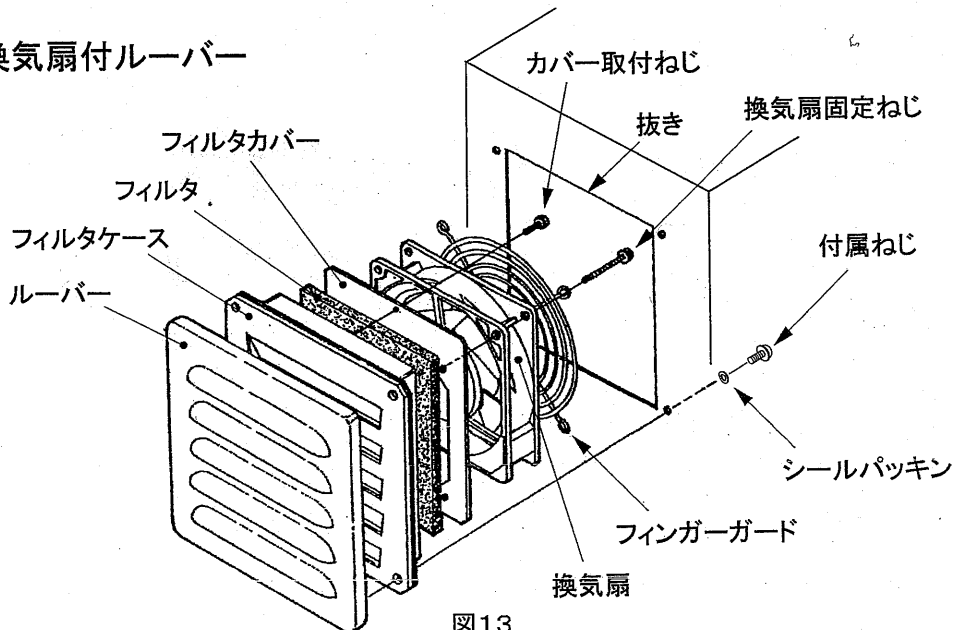


図13

●仕様

定格電圧 (V)	周波数 (Hz)	定格電流 (A)	起動電流 (A)	入力 (W)	使用温度 (°C)	使用湿度 (%)	最大風量 (m ³ /min)	最大静圧 (pa)	騒音 (A特性) (dB)
単相AC100	50/60	0.25/0.22	0.79/0.72	20/18	-10~+60	95以下	0.88/1.00	73/83	約47/49

- 注) 1.最大風量、最大静圧の測定方法は、ダブルチャンバー方式です。
2.フィルタは、モダアクリル・ポリエステル製、除塵率80%
3.騒音はRCP60-66Y-F1A(換気扇1ヶ)仕様での測定値です。

■可変式温度調節器 PTV-M61A(図14)

サーモユニットRBX-TUのサーモスタットは可変式温度調節器PTV-M61Aです。PTV-M61Aで換気扇のON-OFFを行うことにより、キャビネット内の最適な温度管理を行うことができ、同時に経済的な省エネ運転が行えます。出荷時の設定温度は40℃となっておりますので、収納機器の仕様、内部発熱、設置場所に合せて設定温度を調節してください。

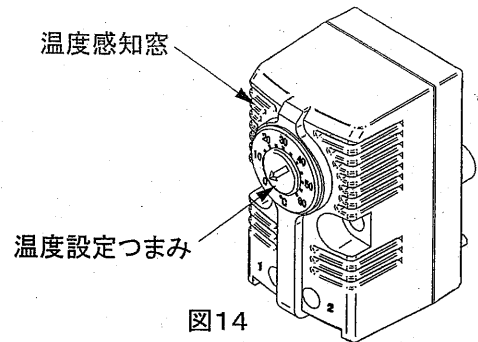


図14

●仕様

品名記号	外形寸法(mm)			温度定格			接点形式
	ヨコ	タテ	フカサ	設定範囲	ON-OFF温度幅	温度公差	
PTV-M61A	31	53	40	0~60℃	約7K(℃)	±4K(℃)	a接点(動作ON・復帰時OFF)

■遮光板取外し方法(メンテナンス時)

1. 扉を開け、ドライバーを使用して機器の取付いている部分の遮光板取付ねじ及び座金を取外してください。(図15)

※ 遮光板が落下しないよう手で支えてください。

注) 再び遮光板を取付ける際は、取外しと逆の手順にて行ってください。その際、取付ねじは確実に締めてください。

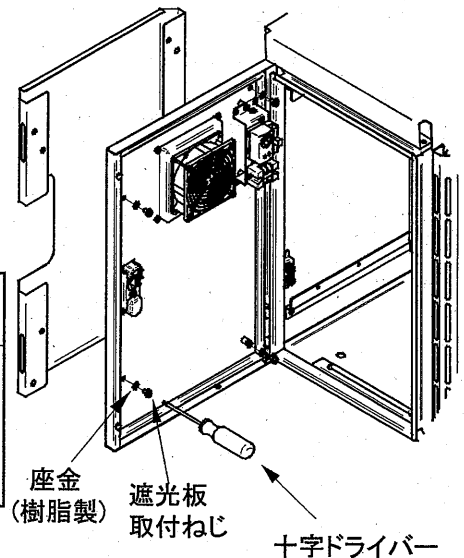


図15

⚠ 危険

・取外した遮光板を取付ける場合、取付ねじは確実に締めてください。締付けが足りない場合、遮光板が脱落し、ケガや機器の故障の原因となる可能性があります。

■保守点検

ステンレス製換気扇付ルーバー、
ステンレス製ルーバー

1. フィルタは定期的に交換又は清掃を行ってください。

(フィルタは1ヶ月に1度以上清掃し、1年間使用したものは交換することをお奨めします。)尚、交換用のフィルタはRD44-50をカットしてご使用ください。

・フィルタ取外し方法

カバー取付ねじを外し、フィルタカバーを取外してください。(図16)

・フィルタ清掃方法

・圧縮空気による吹き付け。

・掃除機による清掃

・水槽内での押し洗い。(中性洗剤を湯(40℃程度)に5:95の割合で薄めた液に一昼夜浸漬後、押し洗いをして清水によりすすぎ洗いをしてください。尚、洗浄後は自然乾燥を行ってください。

2. 換気扇は寿命がありますので定期的に交換を行ってください。交換の際は別途ご用意ください。(PF-125H-M)

注) 取付の際は換気扇の風向に注意してください。風向、羽根の回転方向は換気扇側面に表示してあります。

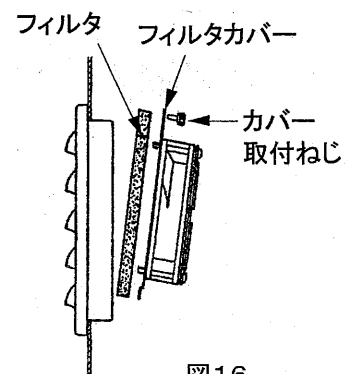


図16

仕様等、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。また、ご不明な点がございましたら弊社お客様相談室にお問い合わせください。この取扱説明書の内容は2009年10月現在のものです。

NITO 日東工業株式会社
©NITTO KOGYO CORPORATION

お客様相談室/愛知県愛知郡長久手町蟹原2201番地 B929261922
TEL(0561)64-0152 SK-089D
http://www.nito.co.jp